

総合教養科目「比較思想」（丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業）

「西洋政治思想史におけるユートピア論の系譜」

犬塚 元

二〇一八年度の公開授業「比較思想」は、「西洋政治思想史におけるユートピア論の系譜」という副題を付して、犬塚元が担当した。授業は木曜一限の時間帯に、二〇一八年四月一二日から七月一九日にかけて実施された（期末試験を除く）。履修者は、公開授業参加者三〇名と、東京女子大学の学生四七名の合計七七名。

授業は、副題のとおり、ユートピア論（ユートピア思想）の思想史を古代ギリシアからポストモダンリズムに至るまで辿る内容であった。授業案内（別掲）にも記したように、ポスト社会主義の現代において、ユートピア論の思想史をどのように物語ることができるか、どのように未来のヴィジョンを語ることが可能か、という点の再検討こそが、今回の講義の目的であった。

各回の授業では、毎週ひとつの作品（ないしはひとつのテーマ）を採りあげて、九〇分で説明が完結する構成とした。作品の説明にあたっては、思想史・歴史的なアプローチだけに限定せず、つとめて、現代社会との関連や、理論的・哲学的な含意についても言及するよう

にした。授業の構成は、以下のとおりである。

- 一 イントロダクション
なぜいまユートピアを論じるのか
- 二 プラトン『国家』
真理・科学にもとづく政治か？ 民意にもとづく政治か？
- 三 ユートピア論としてのキリスト教
理想社会がああ世にあるならば、この世でどう生きるか（政治に無関心・受動的ではだめか）
- 四 モア『ユートピア』
現代に至るまでの平等論の系譜
- 五 ベーコン『ニューアトランティス』、カンパネラ『太陽の都』
性的欲望・感情・行動への警戒
- 六 ハリントン『オセアナ共和国』
人を改造するのではなく制度設計を工夫するアプローチ

(議会に二つの院がある理由)

七 カント『永遠平和のために』

理想的な国際秩序の構想

八 マルクスと社会主義

社会主義(共産主義)とはなんだったか

九 オーウェル『動物農場』

ユートピアからディストピアへ

一〇 オーウェル『一九八四年』

政治と言葉 ささまざまな権力(現代の権力論)

一一 ハクスリー『すばらしい新世界』

主観的幸福のディストピア

一二 ブロツホ『希望の原理』、マルクーゼ『ユートピアの終焉』、ソ

ルニット『災害ユートピア』

左派によるユートピアの再生

一三 宮崎駿『風の谷のナウシカ』(コミック版)

アフター・ユートピア(ユートピアから日常の場の営みへ)

一四 ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』、ローティ『偶然

性・アイロニー・連帯』

現代の政治理論はユートピアをどう論じているか

(メタ・ユートピアの思想)

授業構成のうち、第二―八回の系譜、あるいは、第九―一一回の展

開については、すでに思想史叙述の定型があるが、今回もつとも頭を悩ませたのは、オーウェル後のユートピア思想史をどのように語るかという点であった。結果として、第一二回以後は、ユートピアの再定義と再生というナラティヴとなった。このうち、ノージックのメタ・ユートピアや、ローティのリベラル・ユートピア(あるいは彼の形而上学批判)が、若い世代に想像以上に好意的に受け入れられたことを(若干の驚きとともに)記しておきたい。

授業の形式について言えば、毎回の授業は、プロジェクタでスライド(図表、写真、動画を含む)をスクリーンに投影してそれに即して説明をおこなうとともに、原典を読み上げてそれを解説する形式で実施した。すべての回で受講者には、(一)投影するスライドを印刷したハンドアウト、(二)「原典プリント」(テキストの重要箇所を収録した資料)を配布した。この二つの資料については、東京女子大学の印刷室に準備してもらった印刷物を毎週配布するとともに、東京女子大学の電子配信システム(「ウェブクラス」)でパスワードを付してオンライン配布した。また、授業後にはコメントペーパーを回収し、次回冒頭に、数分から一五分程度を費やして、コメントペーパーに応答した。この応答は、とくに公開授業参加のシニア世代に好評であった。

講義では、できる限り、「原典プリント」の読み上げや解説に時間を割くようにした。原典に親しむことは、思想史学の面白さを伝えるもっとも正統的な方法であるし、あわせて、若い世代の「活字離れ」なるものがあるならば、それに抗うひとつの方法であると考ええるから

である。授業では、上のテキストのほかに、藤田省三「体制の構想」、三木清「ユートピア論」、オーウェル「英語と政治」、村田沙耶香『消滅世界』にも言及する機会があり、「原典プリント」を配布した。

この授業が一方では、教養科目のひとつとして受講している東京女子大学の若い学生たち、他方では、シニア世代がほとんどを占める公開授業参加者、という二つの聴講者を抱えることに由来する悩みや問いは、わたしにとっても、当初は悩ましかった。わたしにしてみれば、一方は自分の子どもの世代、他方は自分の親の世代であり、それゆえに、この二つの受講者クラスターは問題関心、意欲、前提知識の点であまりに違うのではないか、両者に同じ内容を語りうるか、という問いが生まれるのは避けがたかった。

ところが、講義を重ねるなかで、コメントペーパーを通じて次第に分かってきたのは、学生と公開授業参加者の違いを、問題関心や意欲や前提知識の違いとみなすのはかならずしも適切ではないという事実であった。たしかに、シニア世代には、『動物農場』や『一九八四年』などの古典的作品を既に読んだことのある参加者がすくなくなかったが、しかし、年齢や属性による違いを強調することも、公開授業参加者や学生をそれぞれ一括りに理解することも、正確ではないように思われた。すくなくとも今回の題材に限っては、学生たちが受講する教養科目としてのレベル設定と、シニア世代を対象とする公開授業としてのレベル設定は、同一にしても大きな問題はないというのがわたしの最終的な結論である。受講者クラスターのあいだの違いより、相互

によい影響を与えていることにこそ注目すべきであろう。わたし個人にとっては、複合的な受講者集団を相手に講義することは、授業の手法や内容設定に関して再考するよい機会となった。

学生と公開授業参加者の違いに関しては、問題関心・意欲・前提知識の違いというより、感受性や価値観の違いとみなすべき、興味深い対照的な反応も経験した。たとえば、授業のなかで採りあげたハクスリー『すばらしい新世界』（階層別に教育や職業決定がなされ、だれもが主観的には幸福に生活するディストピア）や、村田沙耶香『消滅世界』（出産・育児、性行為、恋愛、家庭が分離されて、終いには家庭の廃棄に至る物語り世界）については、学生たちのなかには共感するコメントがすくなくなかったが、すくなくないシニア世代の参加者には、強い嫌悪感や拒否反応を惹起することとなった。

最終回でのコメントで、公開授業参加者より、

- ・「あっ、もう一〇時、あと三〇分」こんな体験をした講義はこの年（八〇歳）まで経験したことがありますでした。」
- ・「原典プリントも大変有り難かったです。」
- ・「毎回面白すぎてバスに乘らず、歩きながら講義を思い返しました。」
- ・「先生の講義は大変明快でわかりやすく、毎回興味深く聴講することができました。いつも整理されていて全体の構想と細部のつながりが明確で理解しやすいこともあったと思います。」
- ・「以前から聞き知っていたつもりの諸説を改めて、特に現代と関連

づけてご講義下さった先生に感謝の気持ちでいっぱいでございます。」

などの感想を得ることができたことは、なにより嬉しい思い出である。

本講義の実施にあたり、平石直昭先生、渡辺浩先生をはじめとする、東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センターに関わる先生方からさまざまなご支援をいただいた。事務局からは多大な実務的サポートを受けた。川口雄一さん、山辺春彦さんは開講にかかわる事務手続を引き受けてくださった。金子元さんは、今回の一四回すべての授業にご参加くださり、アドヴァイスやこまやかなご配慮を与えてくださった。記してお礼申し上げます。

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター 公開授業
2018年度 受講者募集のご案内

東京女子大学では、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる科目として「比較思想」(半期完結)を設置いたしました。この科目は丸山眞男記念比較思想研究センターの企画により開講するものです。2018年度は、前期に開講し、学部学生と共に学外の方々にも公開いたします。下記の要領にて受講者を募集いたします。

科目: 比較思想

西洋政治思想史における ユートピア論の系譜

講師

犬塚 元 氏

(法政大学 教授)

授業概要

政治について考えることは、よい政治、わるい政治について考えることでもあります。では、よい政治、よい国家とは、どのようなものでしょうか。それはどのように実現できるのでしょうか。そもそも、よい政治とはなにかについて合意は可能なのでしょうか。

この講義では、古代から現代に至るヨーロッパ政治思想史における代表的なユートピア論(理想社会論)を検討することを通じて、人類がよい政治やその実現方法についてどのように考えてきたかを学びます。各回の授業では、具体的なテキストを時代順に1つずつ取り上げて、原典(日本語訳)も参照してその雰囲気に触れながら、それぞれの理想社会論の特徴や歴史的意義を確認します。

20世紀になるとユートピア論は衰退して、反対にディストピア論(逆ユートピア論)が盛んになりますが、現代では、もはやユートピアを語ることは不可能・不適切なのでしょうか、一緒に考えていきましょう。

教材

教科書は指定・使用せず、必要な資料は配付します。

予習・復習のためには、プラトン『国家』、モア『ユートピア』、モリス『ユートピアだより』、オーウェル『1984年』など(いずれも文庫で入手可)、代表的なユートピア論・ディストピア論を直接に読んでみることを強くおすすめします。

講師プロフィール

(いぬづか・はじめ) 東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。博士(法学)。東京大学社会科学研究所助手、群馬大学社会情報学部准教授、東北大学法学研究科教授を経て現職。専攻は政治学史、ヨーロッパ政治思想史。おもな著書に、『デイヴィッド・ヒュームの政治学』(東京大学出版会、2004年)、『岩波講座 政治哲学2: 啓蒙・改革・革命』(編著、岩波書店、2014年)など。

要 領

期 間 2018年4月12日(木)～7月19日(木)(全14回)

※5月3日は休講日です。

※講師の事情による臨時休講は授業内で説明を受けてください。

時 間 毎週 木曜日 1時限目(9:00～10:30)

会 場 東京女子大学 (教室は初回当日正門付近の掲示板でご案内します)

対 象 原則として18歳以上の男女

定 員 30名

受講料 10,000円

※テキスト代等は含みません。

※一度納入された受講料は返却いたしません。ご了承ください。

* 授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おきください。

受講までの流れ

・申込方法

申込書にご記入の上、2018年2月27日(火)までに丸山眞男記念比較思想研究センター宛にご郵送いただくか、電子メールにてご応募ください(必着)。

・結果通知

3月上旬に結果通知はがきをお送りいたします。申し込み多数の場合は、抽選のうえ受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

・受講料納付

受講を認められた方は、結果通知はがき記載の口座に受講料をお振込みの上、結果通知はがきを授業初日に会場にお持ちください。

送付・問合せ先

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター「公開授業」係

TEL: 03-5382-6817 E-mail: marubun@lab.twcu.ac.jp

HP: <http://office.twcu.ac.jp/univ/research/institute/maruyama-center/>

* 事務取扱時間: 水曜日 10:30～16:30(昼休みを除く)

丸山眞男記念比較思想研究センターは丸山眞男文庫を所管する研究機関です

丸山眞男の思索の跡を伝える約2万冊の蔵書と約3万頁の草稿類が1998年に東京女子大学に寄贈されました。東京女子大学は、国際的な丸山眞男研究の拠点となり、貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理を進めるとともに講演会、公開研究会、公開授業等を開催しています。

2012年4月より2017年3月まで、研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」(略称「丸山眞男研究プロジェクト」)を実施。2015年には、丸山宅での蔵書状況をウェブ上に再現した「丸山眞男文庫バーチャル書庫」(<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/shoko>)、丸山のノート・草稿類のウェブ閲覧を可能にした「丸山眞男文庫草稿類デジタルアーカイブ」(<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/archives>)を公開しました。